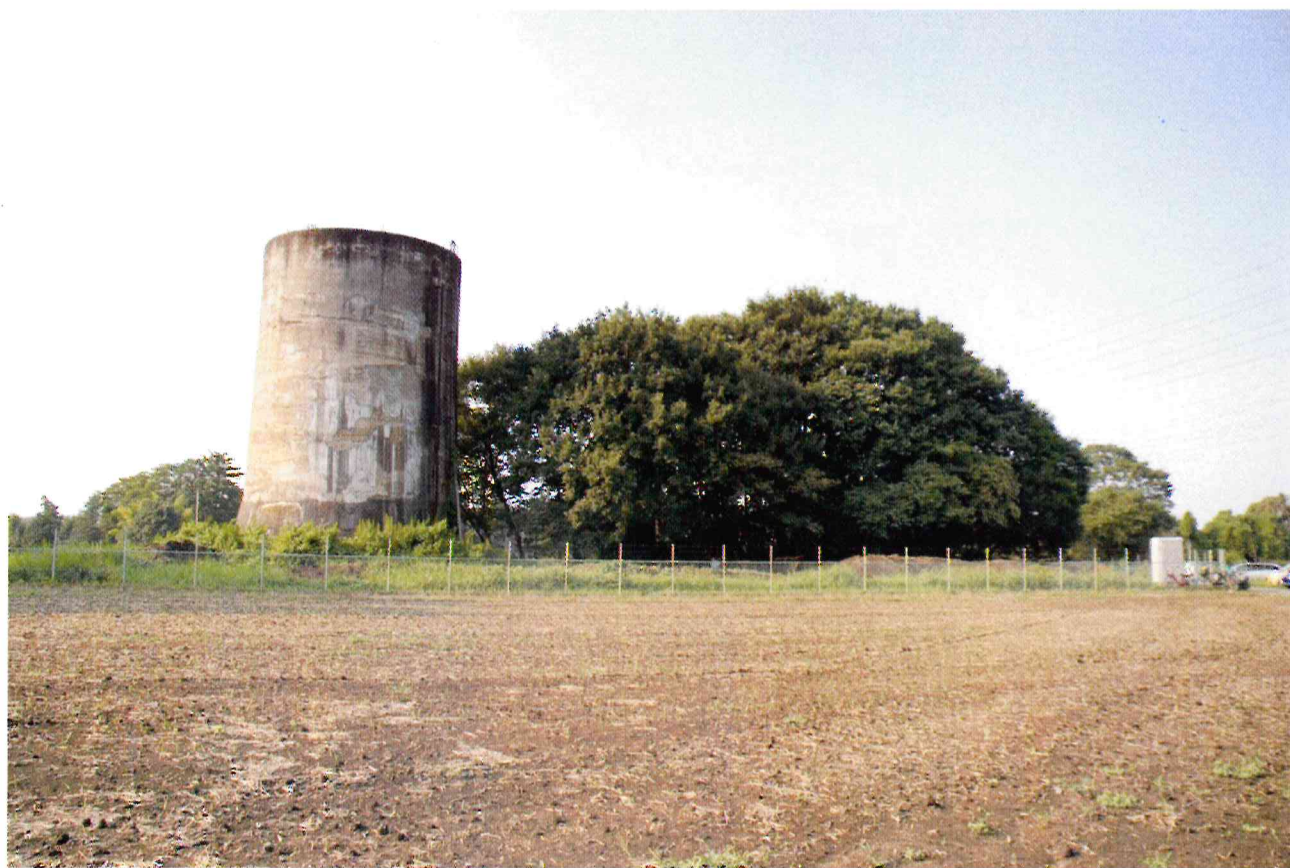


大日塚古墳

— 旧配水塔撤去に伴う発掘調査 —

平成21年3月

宇都宮市教育委員会



①大日塚古墳遠景



②空撮

序

本遺跡内に所在した円筒形の配水塔は、太平洋戦争中に軍事工場などへの配水用として田川から汲み取った水を貯水するために造られたものです。戦後60年が過ぎ、現在は使用されておらず老朽化していることもあり取り壊すこととなりました。今回の調査は、この撤去作業に先立ち実施したものです。

この茂原地区には今回調査を行った大日塚古墳のほか、愛宕塚古墳、権現山古墳の3基の前方後方墳があり、県内でも古手の古墳が連続して造られた地域として注目されています。この他にも弥生時代後半から古墳時代初めにかけての集落が数多く発見されており、宇都宮の古墳時代の幕開けはこの地域から始まったといっても過言ではありません。

本報告書が、本県の古墳時代の始まりを解明する上で、その一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本調査及び報告書の作成にあたり、ご尽力を賜りました、財務省関東財務局宇都宮財務事務所、栃木県教育委員会並びに宇都宮市上下水道局の方々には厚く御礼申し上げます。

平成21年3月31日

宇都宮市教育委員会

教育長 伊藤文雄

例 言

- 1 本報告書は、栃木県宇都宮市茂原町字御馬替 400 他に所在する大日塚古墳に関する発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、旧配水塔撤去に伴う調査で、宇都宮市上下水道局より宇都宮市教育委員会に依頼されたものである。
- 3 調査は、確認調査を平成 18 年 9 月 6 日～8 日に行い、本調査を平成 19 年 7 月 1 日～同年 8 月 31 日に実施した。
- 4 調査対象面積は 1,020㎡で、調査面積は 600㎡である。
- 5 発掘調査での測量、写真撮影等は、今平利幸がこれにあたった。
- 6 遺構・遺物の整理、実測などは、大澤順子、君島朱美、澤村有紀子、大野節子、鈴木道子、阿久津とよ子、川津淳子の協力得て、今平利幸がこれにあたった。また、遺物の写真撮影は、今平利幸、大澤順子、君島朱美、澤村有紀子がこれにあたった。
- 7 本書の執筆は今平がこれにあたった。
- 8 本遺跡出土の遺物及び図面・写真は、宇都宮市教育委員会で保管している。
- 9 発掘調査の関係者は次のとおりである。

[指導助言]

宇都宮市文化財保護審議委員会委員	埜 静夫
〃	橋本 澄朗

事務局

<発掘調査時>

教育長	伊藤 文雄
教育次長	高井 徹
文化課長	篠崎 茂
文化課長補佐	篠原 豊
文化財保護係長	大塚 雅之
文化財保護係	井上 俊邦
〃	富川 努
〃	神野 安伸
〃	今平 利幸
〃	須田浩太郎
〃	君島 直人
〃	前原 義之
〃	黒須 寛
〃	寛 芳子

<報告書作成時>

教育長	伊藤 文雄
教育次長	高井 徹
文化課長	檜原 貞亮
文化課長補佐	篠原 豊
文化財保護係長	大塚 雅之
文化財保護係	井上 俊邦
〃	神野 安伸
〃	今平 利幸
〃	須田浩太郎
〃	君島 直人
〃	前原 義之
〃	黒須 寛
〃	鈴木 浩史
〃	寛 芳子

(発掘調査補助員)

入江晴江、堀中国代、入江タネ子、鈴木キヨ、入江通子、入江タカ子、松浦悦子、橋本フヂ、高嶋キヨノ

10 発掘調査及び報告書作成においては、次の諸機関、諸氏にご協力を頂いた。記して感謝の意を表する。(敬称略・順不同)

財務省関東財務局宇都宮財務事務所、栃木県教育委員会文化財課、財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター、宇都宮市上下水道局

凡 例

1. 挿図の縮尺は、竪穴住居跡などの遺構が1/60とし、遺物は1/3で示した。また、遺物実測図番号は遺構平面図の番号及び図版の遺物番号と一致する。
2. 断面図基準線は標高であり、平面図の方位は真北を示す。
3. 遺構実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。
ロームブロック…RB ローム粒…RR 今市パミス…IP 七本桜パミス…SP 鹿沼パミス…KP 焼土粒…SY 焼土ブロック…SYB 炭化物…C
4. 遺構においては次の略号を使用した。
溝…SD 土坑…SK 不明…SX 竪穴式住居跡…SI

目 次

I	はじめに	
1	調査の経過	1
2	調査の方法	1
3	地理的環境	1
4	歴史的環境	3
II	調査内容	
1	大日塚古墳	7
2	竪穴住居跡	12
3	土 坑	15
4	不明遺構	16
5	遺構外出土遺物	16
III	おわりに	18

挿図目次

第1図	大日塚古墳全体図	2
第2図	弥生中期～古墳時代中期周辺遺跡分布図	4
第3図	周溝断面図	8
第4図	大日塚古墳周溝平面図	9・10
第5図	大日塚古墳周溝及び周辺出土遺物実測図	11
第6図	SI01平・断面図	12
第7図	SI01出土遺物実測図	12
第8図	SI02平・断面図	13
第9図	SI02出土遺物実測図	13
第10図	SI03平・断面図	14
第11図	SI04平・断面図	14
第12図	SI04出土遺物実測図	15
第13図	SK01平・断面図	15
第14図	古銭	15
第15図	SX01平面図	16
第16図	SX01断面図	17
第17図	SX01出土遺物実測図	17
第18図	遺構外出土遺物実測図	17
第19図	大日塚古墳	20
第20図	後方部規模比較図	20
第21図	愛宕塚古墳	21

表目次

第1表	周辺遺跡一覧表	5
第2表	県内の前方後方墳規模比較一覧表	19
第3表	古墳時代前期遺跡出土素文鏡一覧	22

写真図版目次

巻首図版一	①大日塚古墳遠景	②空撮
PL1	①前方部セクション	
	②括れ部セクション	
PL2	①後方部セクション	
	②前方部調査風景	
PL3	①SX01	
PL4	①SI01完掘状況	
	②SI02完掘状況	
PL5	①SI03と前方部周溝完掘状況	
	②SI03セクション	
PL6	①SI04確認状況	
	②SI04遺物出土状況	
PL7	①SK01古銭出土状況	
	②後方部周溝外焙烙出土状況	
PL8	①周溝及び周辺出土遺物	
	②SI01出土遺物	
PL9	①SI02出土遺物	
	②SI04出土遺物	
	③SX01出土遺物	
PL10	①古銭	②遺構外出土遺物

I. はじめに

1. 調査の経過

平成 18 年に、宇都宮市上下水道局より、宇都宮市茂原町に所在する大日塚古墳隣接の旧配水塔を撤去するにあたり、包蔵地の取り扱いについての相談があり、宇都宮市文化課と協議を行った。

工事の概要は、大日塚古墳の西側にある太平洋戦争時に軍事工場への給水用として造られた旧配水塔を取り壊し、併せてそれに連結する水道管を撤去するとのことであった。この場所は、埋蔵文化財包蔵地の県番号 4313 大日塚古墳にあたることから文化財保護法に則った手続きが必要であることを上下水道局に伝えた。

その後、8 月 18 日付けで宇都宮市上下水道事業管理者上下水道局長今井利男より、本調査に先立つ確認調査の依頼があり、対象となる 1,020㎡分の確認調査を 9 月 6 日～8 日にかけての 3 日間で行った。

調査方法は幅 2 m の試掘溝を対象範囲内に数箇所設置し、遺構の有無を確認した。その結果、大日塚古墳の周溝と竪穴住居跡と思われる遺構が 2 ヶ所、溝跡 1 ヶ所が確認できた。

この調査結果を上下水道局に通知し協議を行った結果、上下水道局が予算を確保し、次年度に本調査を実施することとなった。

平成 19 年度は、前年度の確認調査の結果確認された遺構範囲である 600㎡を面的に調査した。調査は、7 月 1 日～8 月 31 日の 2 ヶ月間行った。

調査終了後は一端埋め戻しを行い、その後旧配水塔の撤去作業が行われた。

なお、この古墳は昭和 58 年から昭和 60 年にかけて、当時宇都宮大学の久保哲三教授のもと宇都宮大学考古学研究会が発掘調査を行い、前期の前方後方墳であることが判明している。

2. 調査の方法

以前から旧配水塔下の盛土部分が古墳ではないかとの指摘があったが、平成 18 年度に行った確認調査の結果、古墳でないことが判明したことから、本調査においてこの部分は調査から除外した。

これ以外に旧配水塔西側で確認された住居跡周辺と水道管が通る大日塚古墳の南側を第 1 図のように面的に広げ調査を行った。

測量に際しては国家座標にのった 10 m メッシュを使用した。

3. 地理的環境

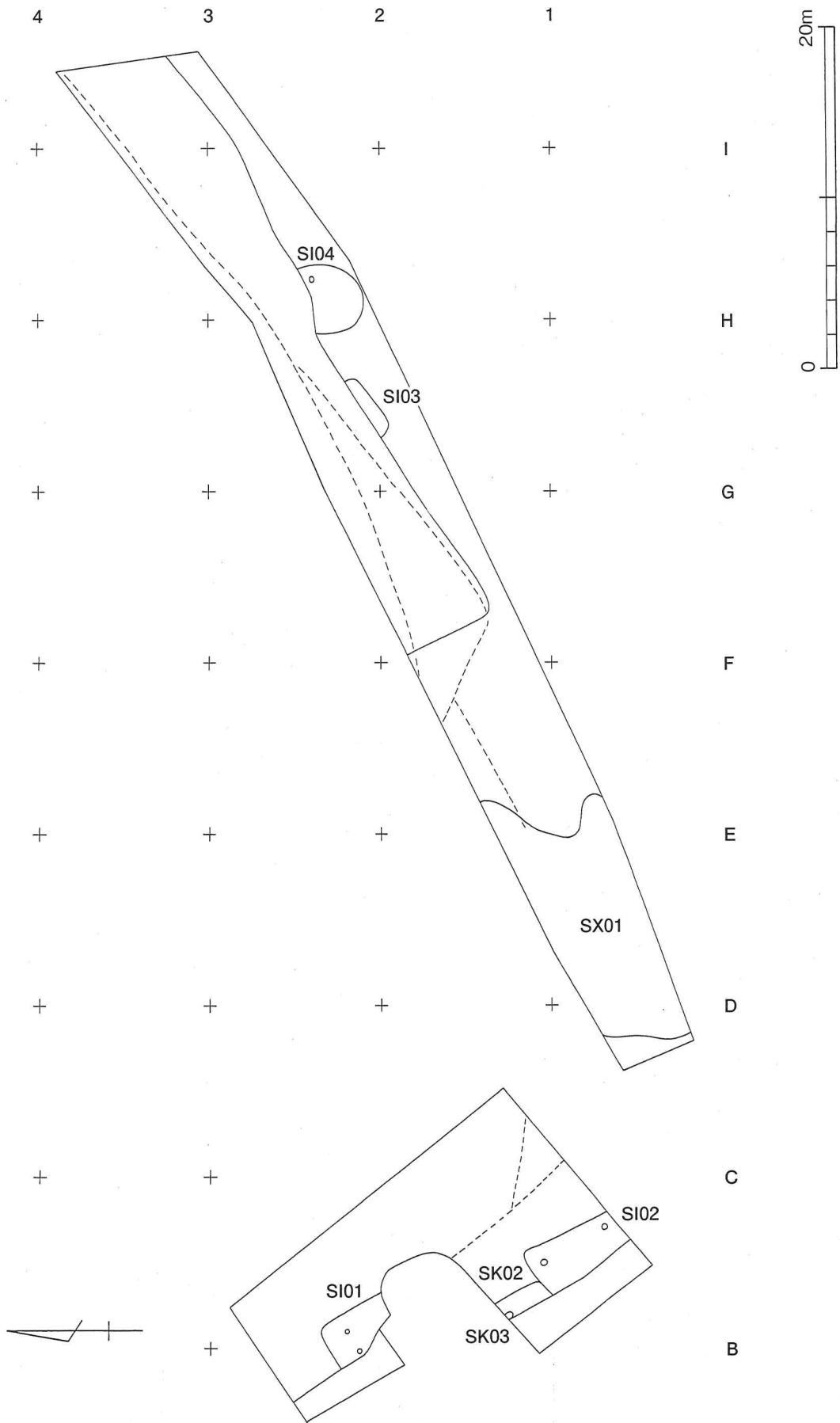
大日塚古墳の所在する宇都宮市は、栃木県の中央部に位置し、関東平野の最奥部にあたる。本遺跡は、宇都宮市の中心から南方へ約 10km、JR 雀宮駅の南南東約 2.3km に位置する。

現在は関東財務局が管理する国有地となっており、古墳上に雑木が生えている他は草地となっている。

本遺跡は、姿川と田川に挟まれた南北に延びる宝木台地東端の標高約 85 m に立地し、田川により形成された沖積地との比高は約 9 m である。東方約 1 km のところに田川が南流する。

また、本遺跡と北方約 200 m のところにある権現山古墳との間には小さな谷が入り、「東谷田」「北谷田」等の字名が残る。このことから、この周辺では、この小さな谷を使った小規模な水稻栽培が行われていたことが想定される。

次に、本遺跡周辺の歴史的環境について概略を述べる。



第1図 大日塚古墳全体図 (1/350)

4. 歴史的環境

本遺跡が営まれた宝木台地上は、県東部の五行川・小貝川流域とともに弥生後期後半の二軒屋式土器が濃密に分布する地域である。また、古墳時代においても引き続き多数の古墳や集落が営まれている。ここでは、弥生時代と古墳時代の遺跡を中心に歴史的環境について記述する。

弥生時代

中期は、本遺跡の南西約1mのところにある西下谷田遺跡で1軒の竪穴住居跡が確認されているほか、権現山北遺跡、上神主茂原遺跡、殿山遺跡、愛宕塚東遺跡などで遺物が確認されている。特に愛宕塚東遺跡は遺構が確認されていないが、本遺跡の東側に所在し中期の弥生土器が散布している。西下谷田遺跡の状況や藤田典夫（岩上・藤田1997）が指摘するようにこの時期の集落は、1軒～数軒程度の小規模なムラが小支谷を取り囲むように点在していたと想定される。

後期は、二軒屋遺跡、若松原南遺跡、西原遺跡、天狗原遺跡、本村遺跡、殿山遺跡、権現山北遺跡、愛宕塚東遺跡など遺跡数が増える。愛宕塚東遺跡も発掘調査は行われていないが、二軒屋式土器が表採され、中期に引き続き集落が営まれていたと想定される。なお、弥生時代末には、殿山遺跡で21軒の竪穴住居跡が確認されていることから、集落規模が拡大したことがわかる。

古墳時代

前期の集落跡は、天狗原遺跡、殿山遺跡、権現山北遺跡、西下谷田遺跡、大日塚古墳周辺、権現山北遺跡、牛塚東遺跡、花の木町遺跡などさらに遺跡数が増える。西下谷田遺跡では、15軒の住居跡が確認され、S字甕をはじめとする東海系土器や樽式・吉ヶ谷系土器など外来系の土器を出土する。

前期古墳は、今回調査を行った大日塚古墳のほか、本墳の南方約100mのところにある全長約50mの愛宕塚古墳、本墳の北方約200mのところにある全長約63mの権現山古墳と、3基の前方後方墳がこの地域に連続して築造される。

そして、これらの前方後方墳に後続して造られるのが愛宕塚古墳の南方約1kmのところにある上神主浅間神社古墳である。この古墳は直径54mの前期末～中期初頭にかけての大型円墳で、方形墳から円形墳への転換期の古墳として注目される。

この後、中期の中葉になると、本遺跡から北東方約1.5km、田川の東側に全長約100mの県内最大級の前方後円墳である笹塚古墳が築造される。この周辺には双子塚古墳、鶴舞塚古墳、松の塚古墳など比較的大きな前方後円墳や円墳が築かれ、東谷古墳群を形成する。

これとほぼ並行する時期に、本遺跡から北西方約4kmのところ、塚山古墳を中心とする塚山古墳群が築かれる。塚山古墳は全長98mの前方後円墳で墳丘は三段に築かれ、後円部と前方部の一部に葺石を持つ。円筒埴輪・朝顔形埴輪・土師器・須恵器が出土している。これに後続して全長63.1mの帆立貝形前方後円墳である塚山西古墳、全長58mの帆立貝形前方後円墳である塚山南古墳が順次築造される。その周辺に小円墳群が築かれている。

このほかにも田川西岸の宝木台地上には、牛塚古墳、本村古墳群や城南3丁目遺跡など中期後半以降に築造を開始する古墳群が増える。

中・後期の集落跡は、権現山北遺跡、殿山遺跡など前期から継続して営まれる集落のほか、東谷・中島遺跡群のように中期以降に集落が営まれ始めるものもある。



第2図 弥生中期～古墳時代中期周辺遺跡分布図 (1 : 50,000)

No.	遺 跡 名	所 在 地	備 考
1	大日塚古墳	宇都宮市茂原町	全長 36.5m の前方後方墳。
2	愛宕塚古墳	宇都宮市茂原町	全長約 50m の前方後方墳。
3	愛宕塚東遺跡	宇都宮市茂原町	弥生～古墳の集落跡。
4	権現山古墳	宇都宮市茂原町	全長約 63m の前方後方（円）墳。
5	権現山北遺跡	宇都宮市茂原町	旧石器時代・弥生～平安の集落跡。
6	双子塚古墳	宇都宮市東谷町	全長約 70m の前方後円墳、前方部が削平されている。
7	笹塚古墳	宇都宮市東谷町	全長約 100m の前方後円墳、二重の周堀をもつ。
8	鶴舞塚古墳	宇都宮市東谷町	直径約 50m の円墳、墳丘は削平されている。
9	松の塚古墳	宇都宮市東谷町	直径約 50m の円墳。
10	原遺跡	宇都宮市東谷町	古墳時代中期・後期の集落跡。
11	塚山古墳群	宇都宮市西川田町	塚山古墳・塚山西古墳・塚山南古墳の 3 基の前方後円墳と多数の円墳で構成されている。
12	二軒屋遺跡	宇都宮市雀宮町	弥生時代後期の標式遺跡。
13	若松原南遺跡	宇都宮市若松原	弥生・古墳時代の集落跡。
14	天狗原遺跡	宇都宮市雀宮町	弥生後期・古墳時代の集落跡。
15	牛塚古墳	宇都宮市新富町	全長 57m の帆立貝式前方後円墳、画文帯神獸鏡や武器・武具等を出土。現在は消滅。
16	牛塚東遺跡	宇都宮市雀宮町	古墳時代前期の方墳 2 基、奈良・平安時代の集落跡。
17	西下谷田遺跡	宇都宮市茂原町	古墳時代前期の集落跡・古墳時代後期の円墳群・飛鳥時代の官衙関連遺跡・平安時代の墓域。
18	北原東遺跡	宇都宮市茂原町	古墳時代前期の方墳 1 基、木棺墓 1 基。
19	上神主浅間神社 38 号墳	上三川町上神主	一辺約 10 m の方墳、斧・鎌の石製模造品を出土。
20	上神主浅間神社古墳	上三川町上神主	直径 54m の円墳、底部穿孔土器を出土。
21	上ノ原遺跡	上三川町多功	古墳時代前期・奈良時代の集落跡。
22	殿山遺跡	上三川町上神主	旧石器・縄文・弥生～平安時代の集落跡。竪穴住居跡の総数は 600 軒を越えると報告される大規模集落跡。

第 1 表 周辺遺跡一覧表

(参考文献)

板橋正幸ほか 2006『西下谷田遺跡Ⅱ』栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団

大川清・吉岡秀範ほか 1995『栃木県上三川町殿山遺跡』上三川町教育委員会

久保哲三ほか 1979『権現山北遺跡』宇都宮市教育委員会

久保哲三ほか 1990『下野茂原古墳群』宇都宮市教育委員会

岩上照朗・藤田典夫 1997「栃木県における弥生時代中期後半の土器群—「上山系列」の提唱—」『研究紀要』
第5号 (財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター

安永真一 2001『上神主・茂原 茂原向原 北原東』栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団

Ⅱ. 調査内容

今回の調査は、大日塚古墳に隣接する戦時中に造られた旧配水塔及び配水管の撤去に伴い、破壊される可能性がある部分の調査を中心に行った。

主な遺構は、旧配水塔の西側から竪穴住居跡が2軒、南側から性格不明の遺構が1基、配水管の撤去に伴い調査を行った大日塚古墳の南側周溝部分とその周溝に切られた竪穴住居跡2軒である。

SI01とSI02はほぼ南北に並ぶ。何れも西側が攪乱を受けていることから全体像が不明であるが、南北約5mの隅丸方形を呈すると思われる。古墳時代前期の遺物が少量見られる。

また、周溝外側でSI03とSI04の2軒の竪穴住居跡が確認されたが、何れも古墳の周溝により切られており、古墳築造以前のものであることがわかる。

1. 大日塚古墳

大日塚古墳の南側周溝部分に埋設された水道管撤去に伴い、面的な調査を実施した。その結果、周溝内を横断するようにYの字状に水道管の埋設が確認できた。掘削幅は60cm～1mで、深さは1.3mを越えており第3図断面図からもわかるように古墳の周溝底よりも深く掘られている。

古墳の周溝は、前方部から括れ部にかけてやや窄まり、括れ部で1m程周溝が広がる。周溝の深さは、前方部が深さ70cmと浅いのに対し、括れ部で深さが90cmとなり、20cm程深く掘り下げられ、さらに後方部のセクションB付近では深さが1.3mとなる。これは、墳丘盛土との関係で、後方部がより多くの盛土を必要としたことに起因すると考えられる。

周溝底面は、地山ローム層で、周溝の埋土状況は、自然堆積で、大きく4層に分けられる。

他の遺構との切り合いは、古墳時代前期と考えられる住居跡(SI03・SI04)を2軒切り、近世の土坑(SK01)に切られる。

周溝内から出土した遺物で実測可能なものは第5図のとおりで、古墳時代前期のもののほか、古代や近世のものが出土している。

1は土師器埴で、口径が9cm、器高4.8cm、底径3.4cmである。平底で、体部が「ハ」の字状に開く。口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ハケ。胎土に砂粒を含む。焼成は良好。色調は褐色。後方部周溝内より出土。

2は土師器二重口縁壺の口縁部片で、口径が19cmである。口縁部が短く外反する。口縁部外面ハケ後ヨコナデ、内面ヘラミガキ。胎土に砂粒を含む。焼成は良好。色調は褐色。括れ部周溝内より出土。

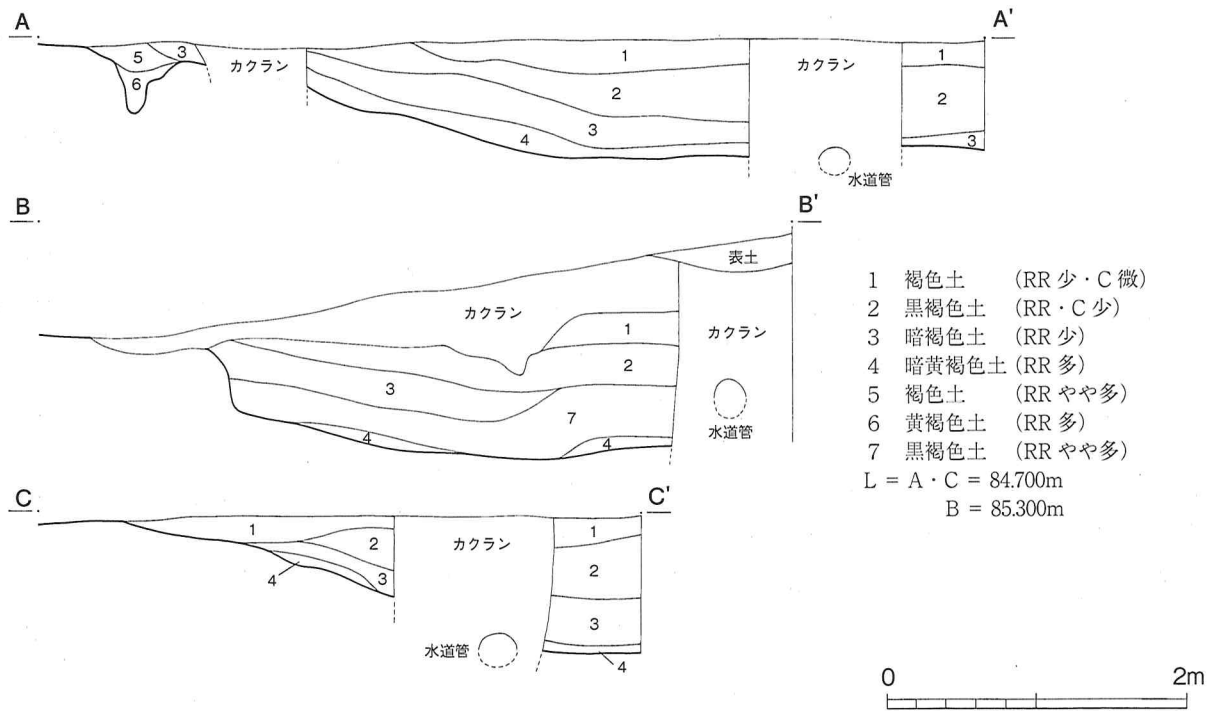
3は土師器S字状口縁甕の口縁部片で、口径が14.8cmである。口縁部が「S」字状に屈曲する。口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケ。胎土に砂粒を含む。焼成は良好。色調は淡褐色。前方部周溝上層より出土。

4は土師器S字状口縁甕の口縁部片で、口径が13cmである。口縁部が「S」字状に屈曲する。口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケ、頸部内面にハケ。胎土に砂粒を含む。焼成は良好。色調は淡褐色。後方部南東コーナー周溝内より出土。

5は土師器壺の胴部片である。胴部外面ハケ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。胎土に砂粒、石英を含む。焼成は良好。色調は淡褐色。後方部周溝内より出土。

6は土師器甕の底部片で、底径が3.6cmである。平底。胴部外面ハケ、内面ナデ。胎土に砂粒、小石を含む。焼成は良好。色調は淡褐色。前方部周溝内より出土。

7は土師器S字状口縁甕の胴部片で、底径が6.2cmである。台端部を折り返す。胴部外面ハケ、内面ナデ、台部外面ハケ後ナデ。胎土に砂粒、小石を含む。焼成は良好。色調は褐色。前方部周溝上層より出土。



第3図 周溝断面図 (1/50)

8は土師器高坏の脚部片である。脚部はやや内湾する。坏部及び脚部外面ヘラミガキ。胎土に砂粒、赤色スコリア粒を含む。焼成は良好。色調は褐色。後方部周溝内より出土。

9は土師器高坏の脚部片である。脚部はやや内湾する。脚部外面ヘラミガキ。胎土に砂粒、赤色スコリア粒を含む。焼成は良好。色調は褐色。後方部周溝内より出土。

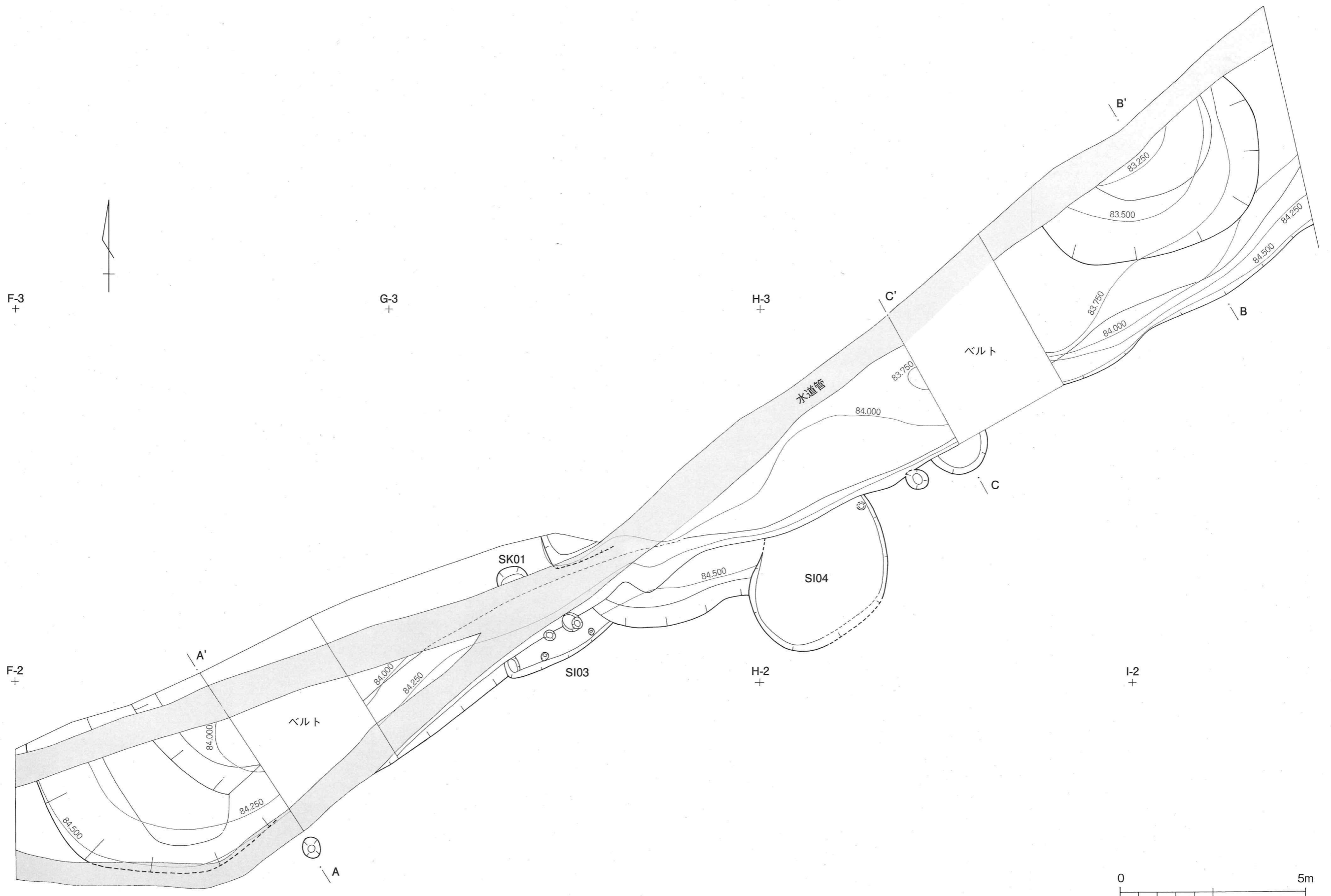
10は土師器坏片で、底径8.8cmである。ロクロ成形。胎土に砂粒、赤色スコリア粒を含む。焼成は良好。色調は淡褐色。後方部周溝内より出土。

11は土師器坏片で、底径6.8cmである。ロクロ成形で、内面ヘラミガキ、底部切り離しは回転糸切り。内面黒色処理。外面に墨書あり。胎土に砂粒、赤色スコリア粒を含む。焼成は良好。色調は淡褐色。後方部周溝内より出土。

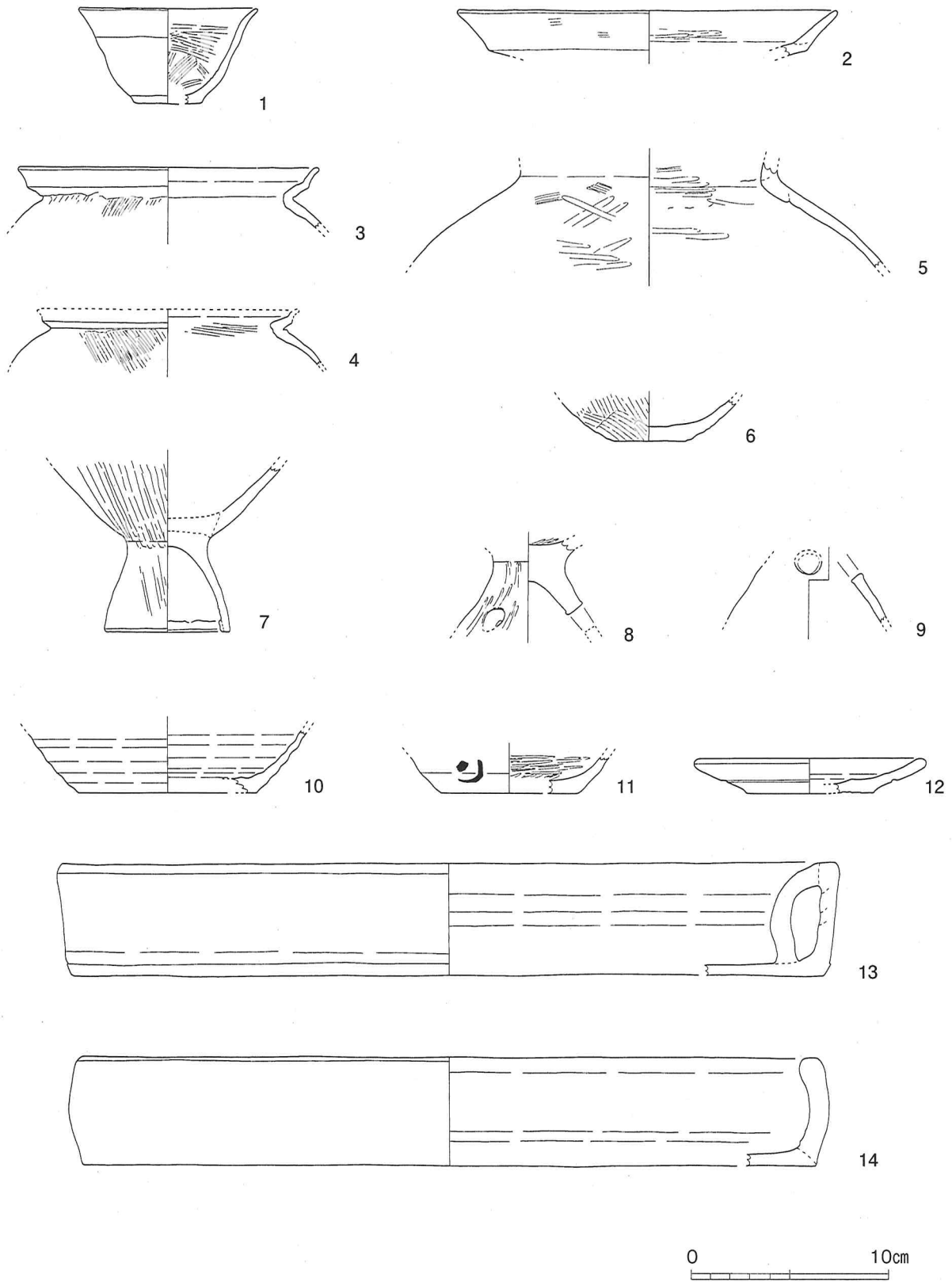
12は土師器皿で、口径11.6cm、器高1.7cm、底径6.4cmである。ロクロ成形で、底部切り離しは回転糸切り。外面に一条の沈線がめぐる。胎土に砂粒、赤色スコリア粒を含む。焼成は良好。色調は赤褐色。括れ部周溝内より出土。

13は焙烙片で、口径38.6cm、器高5.6cm、底径37.6cmである。平底で体部が内湾気味に立ち上がる。胎土に砂粒、赤色スコリア粒、金雲母を含む。焼成は良好。色調は内面暗褐色、外面黒褐色。スス附着。後方部周溝外側より出土。

14は焙烙片で、口径36.7cm、器高5.3cm、底径36.6cmである。平底で体部が内湾気味に立ち上がる。内側に把手を付す。胎土に砂粒、金雲母を含む。焼成は良好。色調は内面暗褐色、外面黒褐色。スス附着。括れ部周溝内より出土。



第4図 大日塚古墳周溝平面図 (1/100)

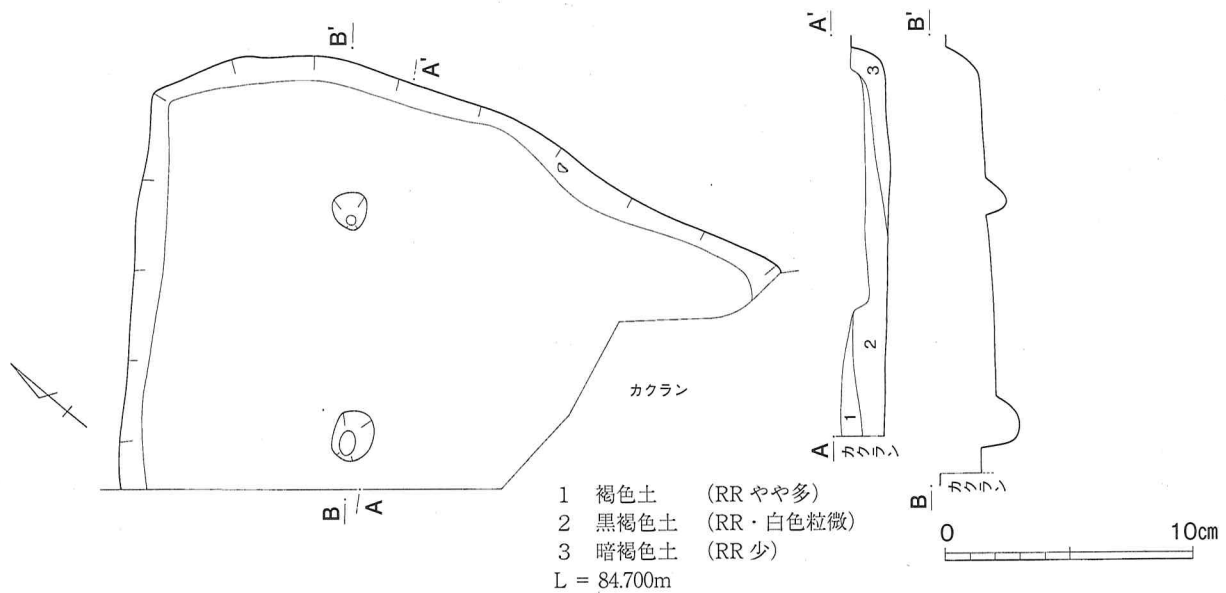


第5図 大日塚古墳周溝及び周辺出土遺物実測図

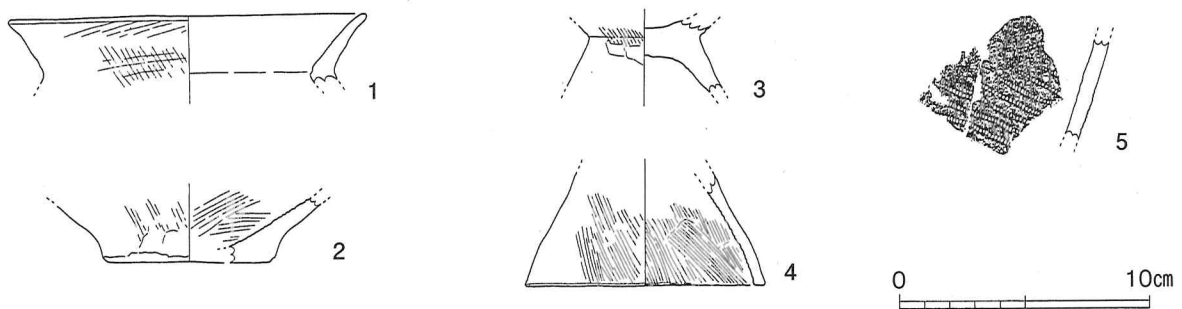
2. 竪穴住居跡

SI01 (第6・7図)

位置 B-3 杭付近。**平面形** 南北5.2 m×東西 — の方形。**方位** N-31°-W **床面** ローム地山。壁確認面から深さ35cm。**壁溝** 無。**柱穴** 2本。**炉** 不明。**遺物** 実測可能な遺物は、土師器甕片4、弥生土器片1。1は甕の口縁部片で、口径が14cmである。「く」字状に屈曲する。口縁部外面ハケ調整後、内外面ヨコナデ。胎土に砂粒、赤色スコリア粒を含む。焼成は良好。色調は淡褐色。外面に煤が付着する。2は甕の底部片で、底径が6.4cmである。平底。内外面ハケ調整。胎土に砂粒、小石を含む。焼成は良好。色調は淡褐色。3は台付甕の台部片である。外面ハケ調整後ナデ。胎土に砂粒、赤色スコリア粒を含む。焼成は良好。色調は淡褐色。4は台付甕の台部片で、底径が9.4cmである。内外面ハケ調整。胎土に砂粒を含む。焼成は良好。色調は淡褐色。台部内面にスス附着。5は弥生土器片である。胴部に付加状2種の縄文を施文する。胎土に砂粒、金雲母を含む。焼成は良好。色調は淡褐色。**備考** 西側と南側が攪乱を受けている。



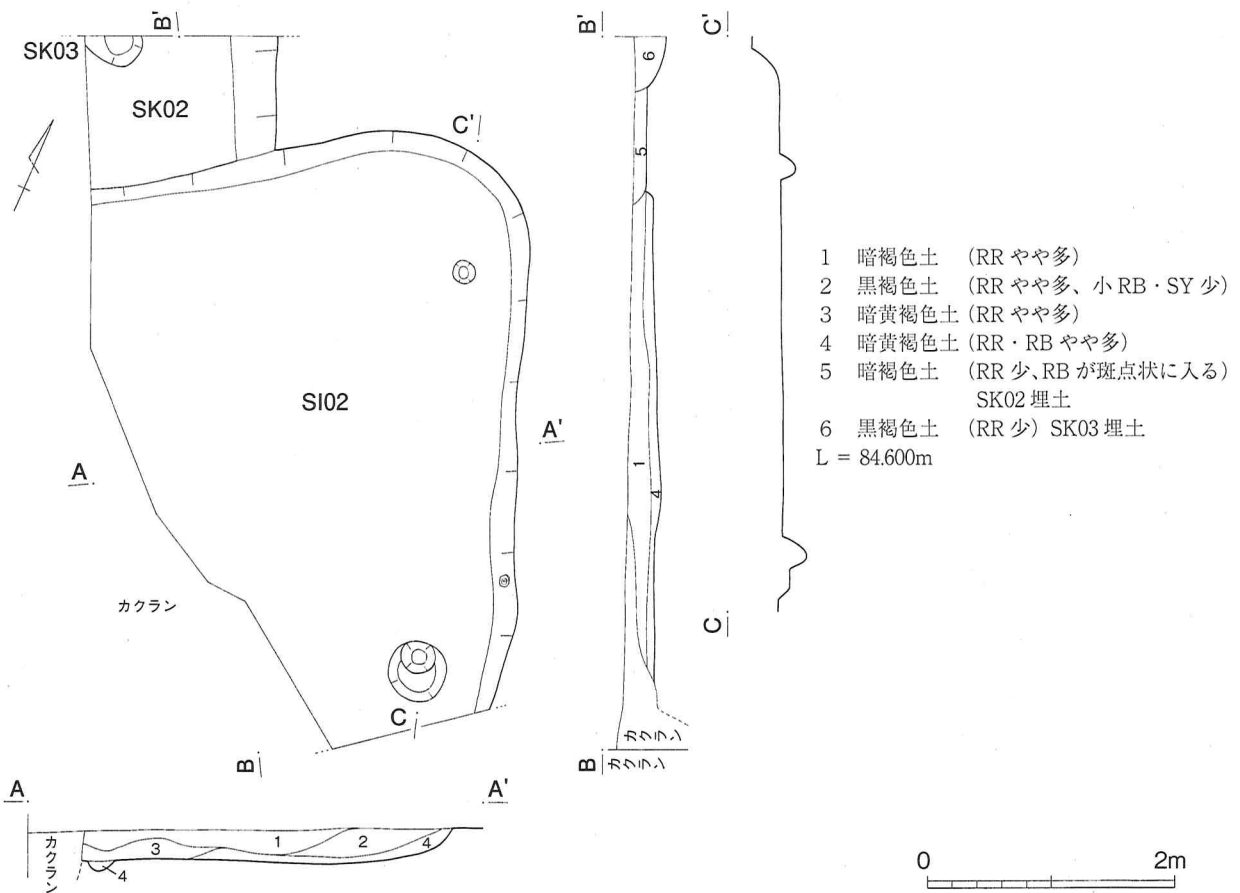
第6図 SI01 平・断面図



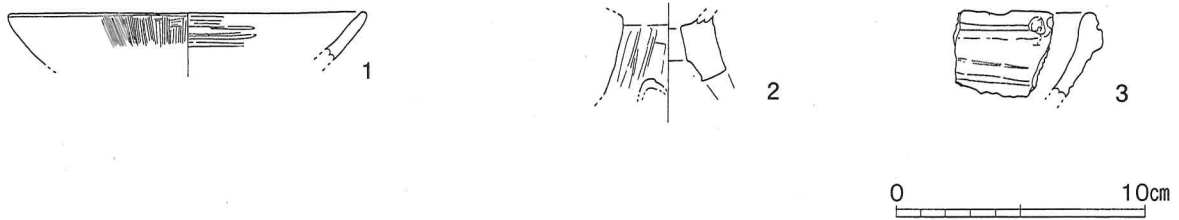
第7図 SI01 出土遺物実測図

SI02 (第8・9図)

位置 C-1 杭付近。平面形 南北 — m×東西 — m の方形。方位 N-34°-W 床面 ローム地山。壁 確認面から深さ35cm。壁溝 無。柱穴 2本。炉 不明。遺物 実測可能な遺物は、土師器高坏片1、器台片1、縄文土器片1。1は高坏の坏部片で、口径が14cmである。外面縦位のヘラミガキ、内面横位のヘラミガキ。胎土に砂粒を含む。焼成は良好。色調は褐色。2は器台の脚部片である。透孔は受部中央と脚部に3孔を穿つ。外面ヘラケズリ後ヘラミガキ。胎土に白色砂粒、小石、赤色スコリア粒を含む。焼成は良好。色調は淡褐色。3は縄文土器の口縁部片である。沈線及び刺突文が施される。胎土に砂粒を含む。焼成は良好。色調は褐色。備考 西側と南側が攪乱を受けている。北側はSK02に切られる。



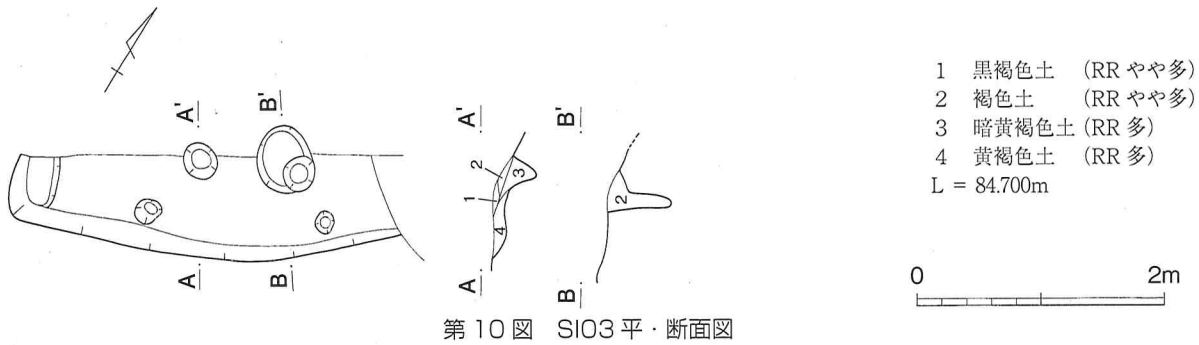
第8図 SI02平・断面図



第9図 SI02出土遺物実測図

SI03 (第10図)

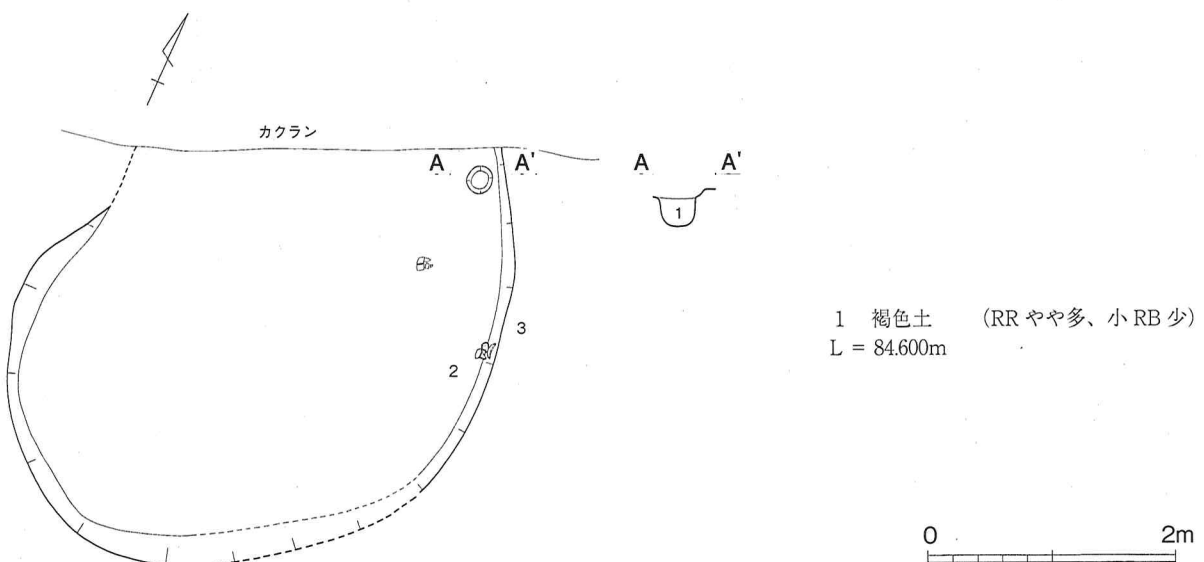
位置 G-2 杭付近。平面形 南北 一 m × 東西 一 m。方位 不明。床面 ローム地山。壁 確認面から深さ10cm。壁溝 西側壁面。柱穴 4本。炉 不明。遺物 実測可能な遺物は無。



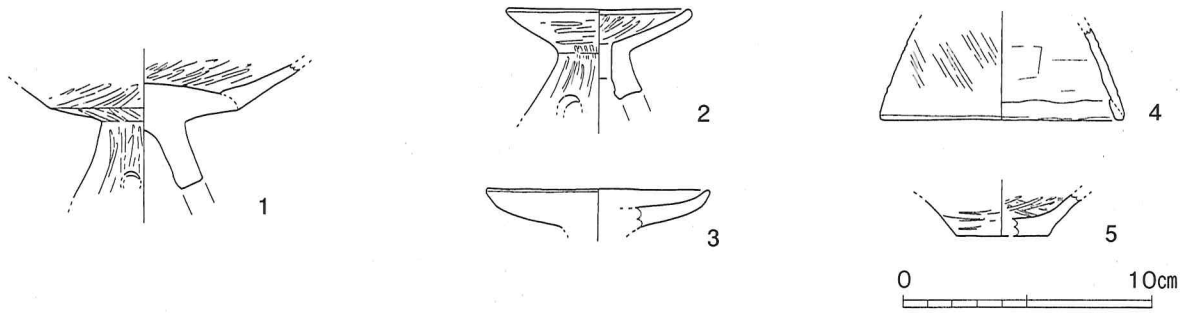
第10図 SI03平・断面図

SI04 (第11・12図)

位置 H-2 杭付近。平面形 南北一 m × 東西 4mの楕円形。方位 不明。床面 ローム地山。壁 確認面から深さ10cm。壁溝 無。柱穴 1本。炉 不明。遺物 実測可能な遺物は、土師器甕片1、高坏片1、器台片2、壺片1。1は高坏の脚部片である。脚部に透孔が3孔穿つ。坏部内外面及び脚部外面入念なヘラミガキ。胎土に砂粒、赤色スコリア粒を含む。焼成は良好。色調は乳白色。外面にスス附着。2は器台片で、口径が7.2cmである。受部中央に1孔と脚部に3孔を穿つ。受部内外面及び脚部外面入念なヘラミガキ。胎土に砂粒、カクセン石を含む。焼成は良好。色調は褐色。3は器台の受部片で、口径が8.8cmである。口縁部を少し摘み上げる。内外面ナデ調整。胎土に砂粒、赤色スコリア粒を含む。焼成は良好。色調は淡褐色。4はS字状口縁台坏甕の台部片で、底径が9.6cmである。台部端を折り返す。外面ハケ調整、内面ナデ調整。胎土に砂粒、石英を含む。焼成は良好。色調は暗褐色。5は小型鉢?の底部片で、底径が3.6cmである。平底。内外面入念なヘラミガキ。胎土に砂粒、赤色スコリア粒を含む。焼成は良好。色調は赤褐色。内外面とも赤彩されている。



第11図 SI04平・断面図

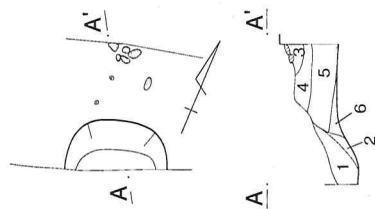


第12図 S104 出土遺物実測図

3. 土坑

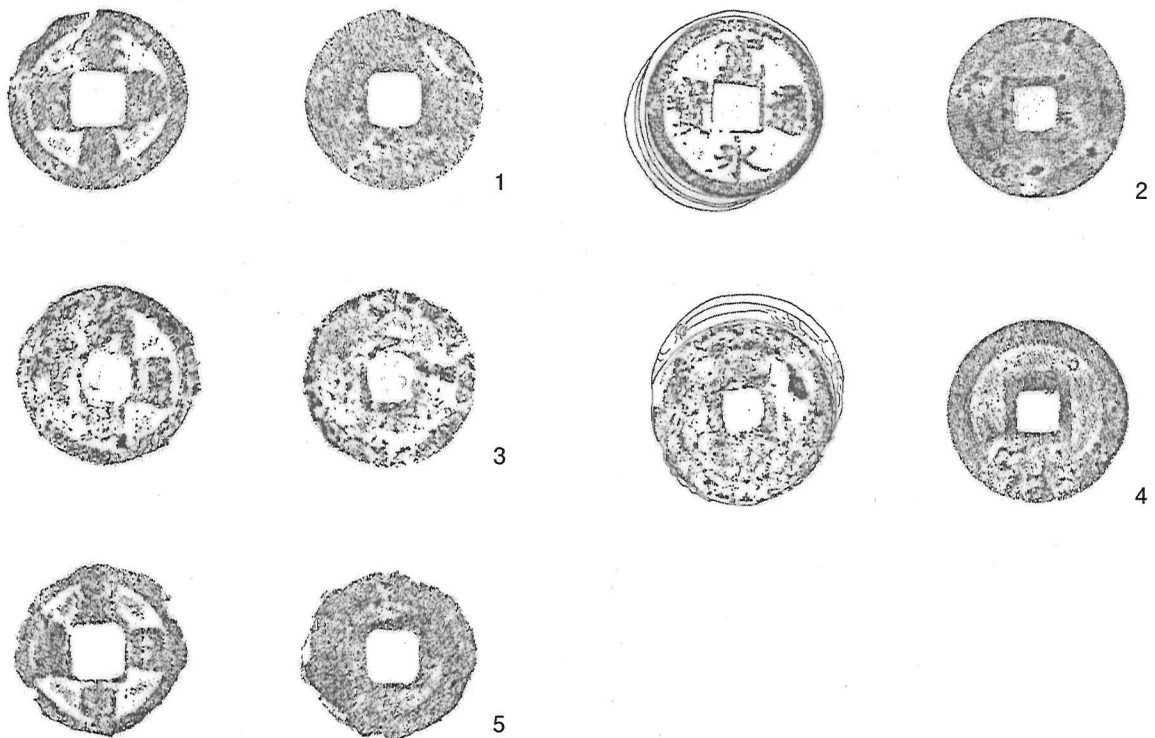
SK01 (第13図)

位置 大日塚古墳くびれ部周溝内。**平面形** 南北 1 m×東西 0.85 m。**方位** 不明。**深さ** 確認面から深さ約 50cm。**埋土状況** 周溝の埋土4層から掘り込まれている。**遺物** 実測可能な遺物は、埋土上層より寛永通宝が6枚ずつ2セット(第14図1~4)、計12枚出土している。古銭の直径は2.37~2.45cmである。**備考** 周辺に小石が散在する。



- 1 暗褐色土 (RR 少)
 - 2 褐色土 (RR やや多)
 - 3 褐色土 (RR 少)
 - 4 黒褐色土 (RR・C 少)
 - 5 暗褐色土 (RR 少)
 - 6 暗黄褐色土 (RR 多)
- L = 84.600m

第13図 SK01 平・断面図



第14図 古銭

SK02 (第8図)

位置 SI02の北側。平面形 不明。方位 不明。床面 ローム地山。深さ 確認面から深さ約10cm。
埋土状況 自然堆積。遺物 無。備考 SI02を切る。

SK03 (第8図)

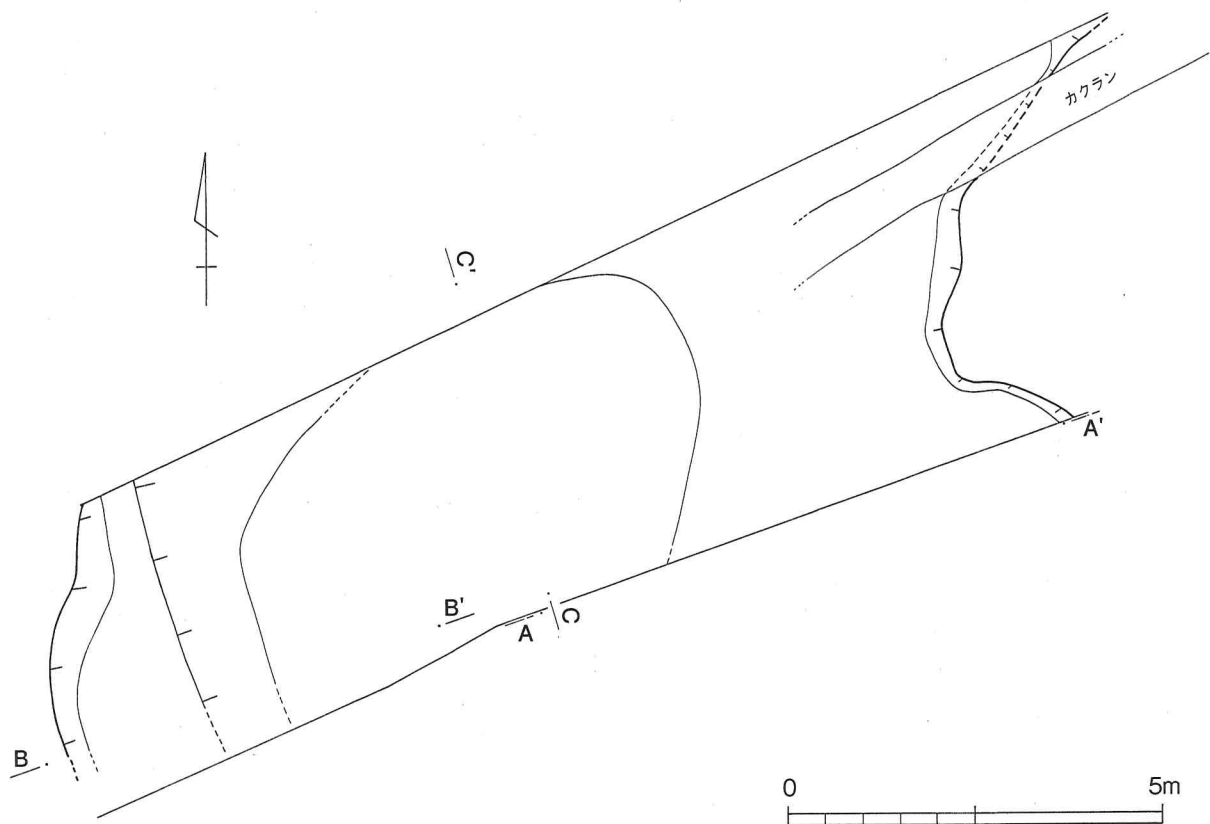
位置 SK02の北側。平面形 不明。方位 不明。床面 ローム地山。深さ 確認面から深さ約20cm。
埋土状況 自然堆積。遺物 無。備考 SK02を切る。

4. 不明遺構 (第15～17図)

SX01は、大日塚古墳の西方10mのところにある幅15mの不整形の遺構である。古墳時代前期の遺物が少量見られ、他の遺構と同じ時期のものと考えられるが、その性格については不明である。

遺構は、中央部分が深さ90cmと深く、東西に向かって徐々に浅くなる。埋土状況は自然堆積である。

実測可能な遺物は、土師器甕2点。第17図1は甕の口縁部片である。「く」字状に屈曲し、口唇部に指頭による押圧がみられる。口縁部外面ハケ調整。胎土に砂粒を含む。焼成は良好。色調は淡褐色。2は甕の胴部片で、底径が5.8cmである。平底。胴部内外面ヘラナデ。胎土に砂粒を含む。焼成は良好。色調は赤褐色。内外面にススが付着する。

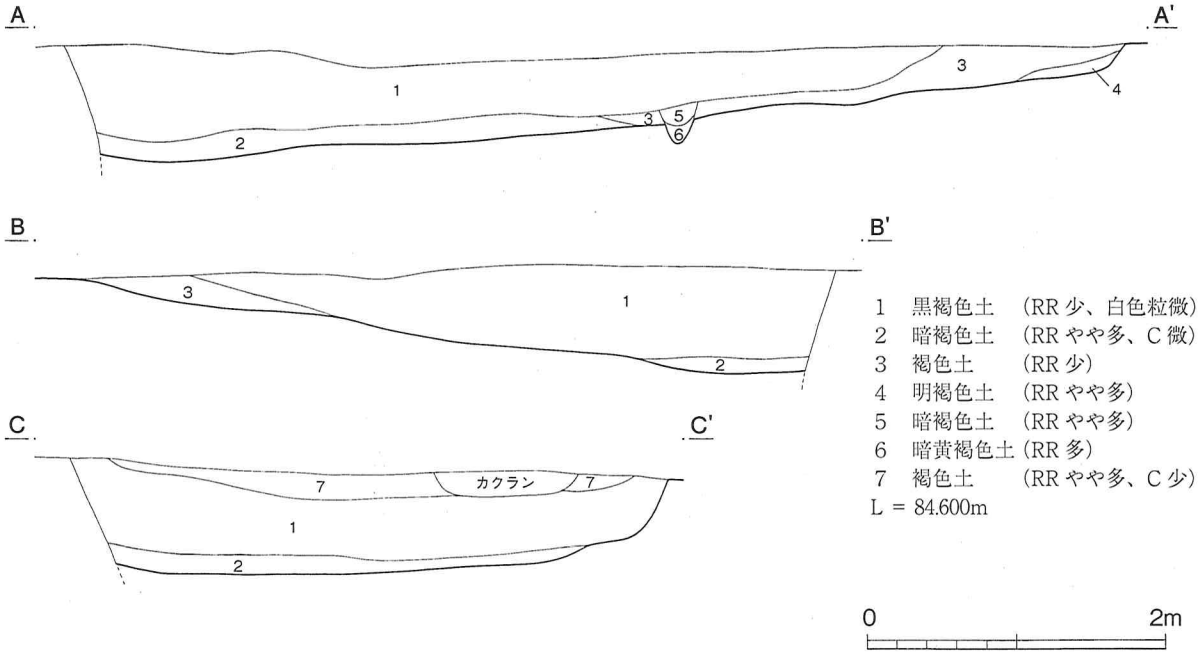


第15図 SX01平面図 (1/100)

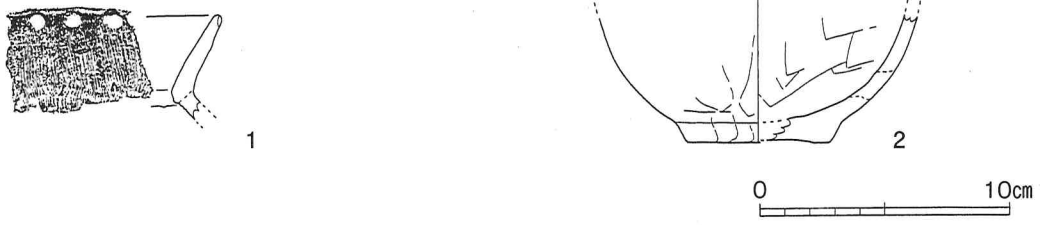
5. 遺構外出土遺物 (第14・18図)

周構内より古銭が1点出土している (第14図5)。銭文は「皇宋通寶」。直径は2.25cm。

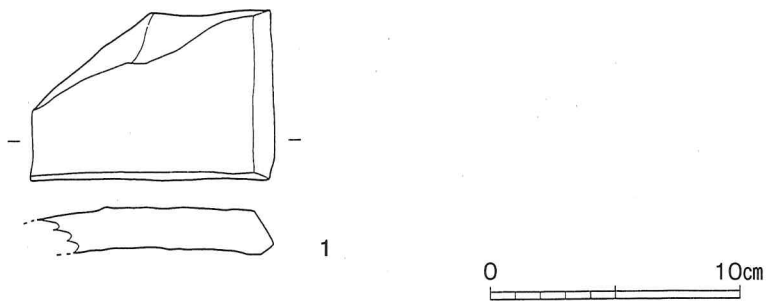
また、遺構外より瓦片が1点出土している (第18図1)。残存長7.0cm、残存幅10.0cm、厚さ0.8cmである。



第16図 SX01断面図 (1/50)



第17図 SX01出土遺物実測図



第18図 遺構外出土遺物実測図

Ⅲ. お わ り に

大日塚古墳は、全長 35.8 m の西面する前方後方墳で、前方部の前端が弧を描く形状である。後方部は長さ 20.3 m、幅 19.1 ～ 19.8 m とほぼ正方形を呈する。埋葬施設は木棺直葬で、素文鏡（面径 2.6cm）と朱が出土している。

今回の調査では、大日塚古墳の南側周溝と周辺の堅穴住居跡を確認することができた。

昭和 58 年～ 60 年にかけての宇都宮大学の調査においてすでに判明したことであるが、古墳時代前期の堅穴住居跡を壊して古墳が造られている状況が今回の調査で改めて確認できた。住居跡出土の遺物が少量であるため、その時間的位置付けは難しいが、SI04 は古墳に切られた住居跡で、出土した高坏は坏部が有稜で、脚部が内湾志向のやや古手の様相を示す。また、古墳との直接の切り合いはないが、SI01 からは十王台式土器の破片が出土している。

周溝内から出土したほとんどの土器も、これら住居跡の掘削によって混入したものと考えられるが、第 5 図 2 の括れ部付近から出土した二重口縁壺の破片や 5 の後方部出土の壺片は古墳に伴う可能性もある。

今回の調査でより明確に判明したのが、周溝の掘り方である。前方部の墳丘の低さに比例し周溝は浅く掘られ、括れ部付近で一段深く掘られ、さらに主体部のある後方部は盛土が多く必要なためか周溝を深く掘っている。

また、周溝を平面的に見ると、括れ部のところで若干周溝が広がり墳丘と相似形をなす。以前の調査で古墳の北側は地形が緩く傾斜することから、ローム地山まで削り出したままで、周溝の立ち上がりがないことがわかっている（第 19 図）。

尚、周溝内から近世の土坑墓と思われる遺構（SK01）や遺物が出土していること、現在でも祠が祭られていることから、この古墳が後世においても信仰の対象となっていたことがわかる。

西側に隣接する配水塔は、古墳の可能性が考えられていたため、四方にトレンチを入れて確認した結果、配水塔建設に伴う盛土であることが判明した。第 19 図の銅鏃は大日塚古墳周辺出土とされているもので、この西側の円墳状盛土がその出土地の候補であったが、その可能性は低くなった。大日塚古墳の主体部は墓坑底面で古銭や煙管が出土する等攪乱を受けていることから、その攪乱の際にこの銅鏃も流出もしくは出土した可能性がある。

最後に、この古墳の築造時期について少し述べてみる。

今回の調査でもその年代を決定できる遺物は出土しなかった。そこで、唯一参考となるのが主体部から出土した素文鏡である。筆者は以前小型素文鏡について類例を集め検討したことがある（今平 1990）。この中で近県例としては、辺田 1 号墳（面径 2.85cm・墳丘 31m の円墳）例がある。この古墳は、焼成前穿孔壺を多量に出土し、廻間Ⅲ式・布留式古段階併行期とされている（木對 2003）。また、古墳出土ではないが、岡山県谷尻 17 号住（面径 3.0cm・古墳時代初頭）、同県百間川沢田遺跡土坑 18（面径 2.9cm・亀川上層式期）、香川県居石遺跡 SR01（面径 2.75cm・古墳時代初頭）等、大日塚古墳出土鏡と同様のものが、布留（古）段階に位置付けられている。

次に墳形から検討してみる。第 2 表と第 20 図は県内の前方後方墳の後方部の規模を比較したものである。このグラフからわかることは、前方後円墳集成編年 1 期に位置づく駒形大塚古墳（11）、三王山南塚 2 号墳（6）は方形で、2 期以降になると方形以外に、松山古墳（3）、山王寺大榭塚古墳（2）、藤本観音山古墳（1）などの縦長、もしくは那須八幡塚古墳（13）、上根二子塚 1 号墳（8）のような横長のものが見られるようになり、大きな流れとしては方形→長方形への変遷が考えられる。赤塚次郎氏は「後方部が正方形から縦長へ

の変化を基調にもつ」(赤塚 1995)と指摘し、塩谷修氏は「時期的に新しい特徴を持つ常陸の前方後方墳は縦長に統一されている」と指摘している(塩谷 2006)。

上述した墳形変遷の方向性から考えると、大日塚古墳の南側に位置する愛宕塚古墳(第21図)の後方部形状は長方形であることから、大日塚→愛宕塚の順が考えられる。愛宕塚古墳は、その出土遺物から前方後円墳集成編年2期に位置付けられる。

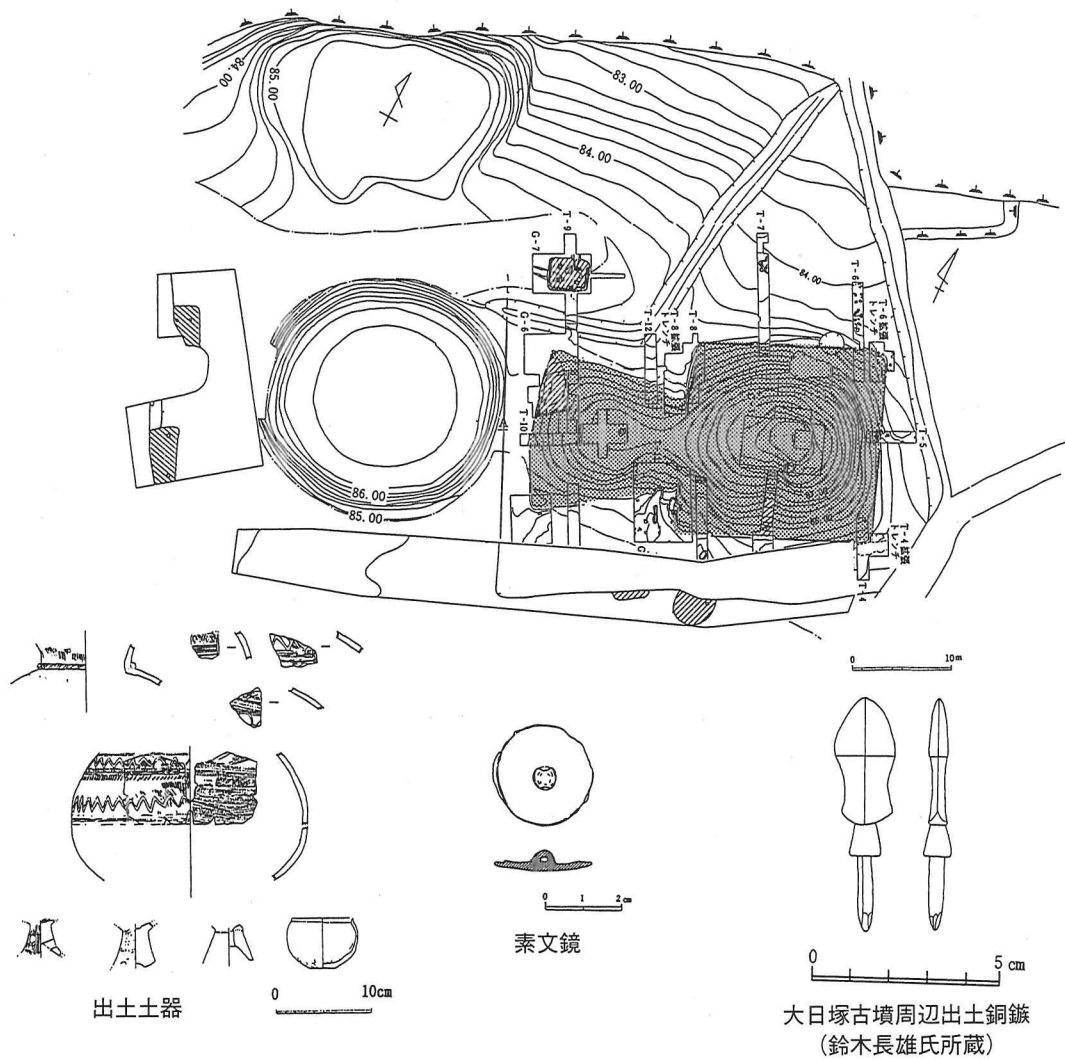
以上の2点と墳丘下住居跡との関係から、本墳は古墳時代前期前半(前方後円墳集成編年2期)の古墳と位置付けておきたい。

(参考文献)

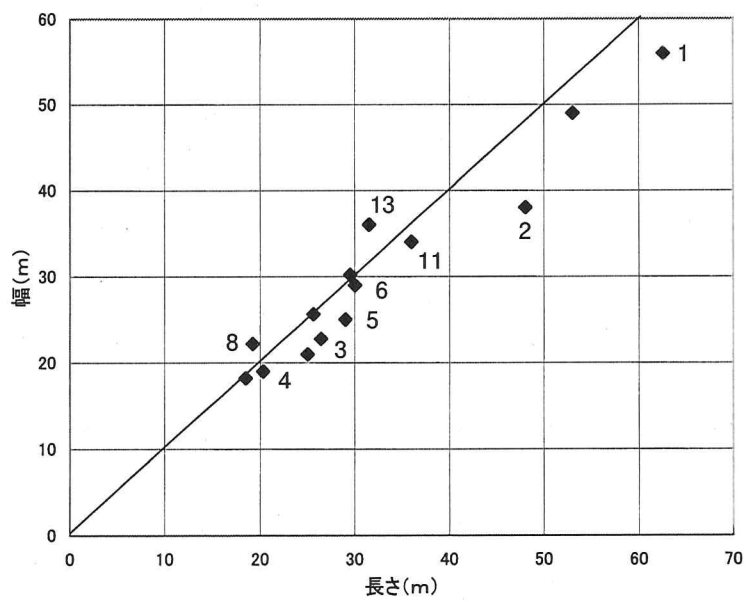
- 赤塚次郎 1995「初期前方後円(方)墳出土の土器」『季刊考古学』第52号 雄山閣
 木對和紀 2003「辺田古墳群」『千葉県の歴史』資料編考古2 千葉県
 久保哲三ほか 1990『茂原古墳群』宇都宮市教育委員会
 今平利幸 1990「大日塚古墳出土の小型素文鏡について」『茂原古墳群』宇都宮市教育委員会
 神山悦子 1990「宇都宮大学所蔵の銅鏃について」『峰考古』第8号 宇都宮大学考古学研究会
 塩谷修 2006「北関東の前方後方墳」『第11回東北・関東前方後円墳研究会 シンポジウム 前方後方墳とその周辺 発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会

No.	古墳名	所在地	規模 (m)						主体部	備考
			全長	前方長	後方長	後方幅	前方比	後方比		
1	藤本観音山古墳	足利市	117.8	55.3	62.5	56	46.94	89.6		
2	山王寺大柵塚古墳	藤岡町	96	48	48	38	50	79.17	粘土槨	
3	松山古墳	佐野市	44.4	18	26.4	22.8	40.54	86.36		隣接して方墳28基
4	茂原大日塚古墳	宇都宮市	36	15.5	20.3	19	43.06	93.6	木棺直葬	
5	茂原愛宕塚古墳	〃	50	20.6	29	25	41.2	86.21	木棺直葬	
6	三王山南塚2号墳	下野市	50	20	30	29	40	96.67		
7	三王山南塚1号墳	〃	46	23	29.5	30.2	50	97.68		
8	上根二子塚1号墳	市貝町	33.2	13.6	19.2	22.2	40.96	86.49		
9	上根二子塚3号墳	〃	41.7	16.1	25.6	25.6	38.61	100		
10	山崎1号墳	真岡市	33.4	15	18.43	18.2	44.91	98.75	粘土槨	
11	駒形大塚古墳	那珂川町	64	25	36	34	39.06	94.44		
12	吉田温泉神社古墳	〃	47	22	25	21	46.81	84	木炭槨	
13	那須八幡塚古墳	〃	60.5	29	31.5	36	47.93	87.5	木炭槨?	隣接して方墳19基
14	下侍塚古墳	大田原市	84	31	53	49	36.9	92.45		

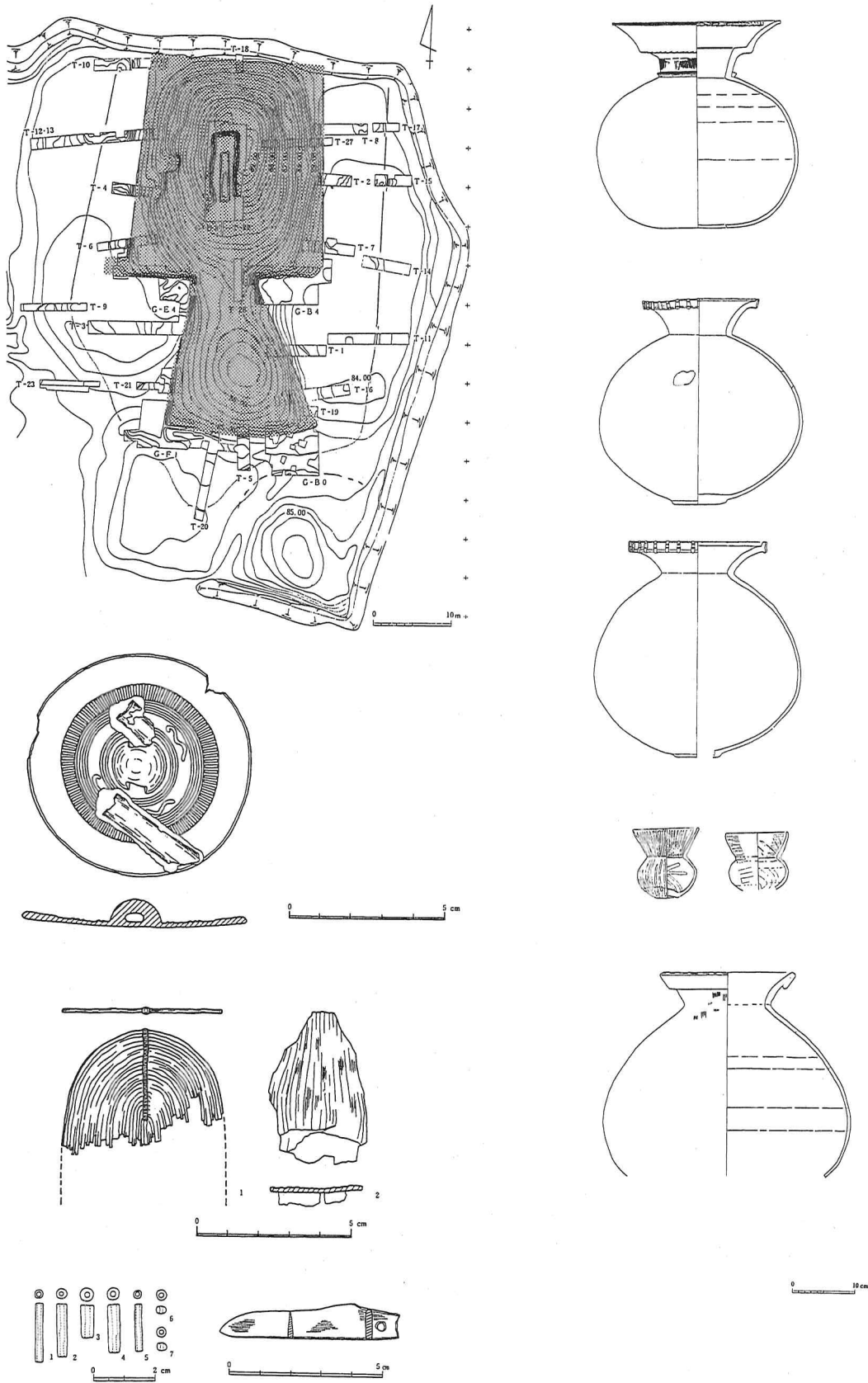
第2表 県内の前方後方墳規模比較一覧表



第 19 図 大日塚古墳



第 20 図 後方部規模比較図

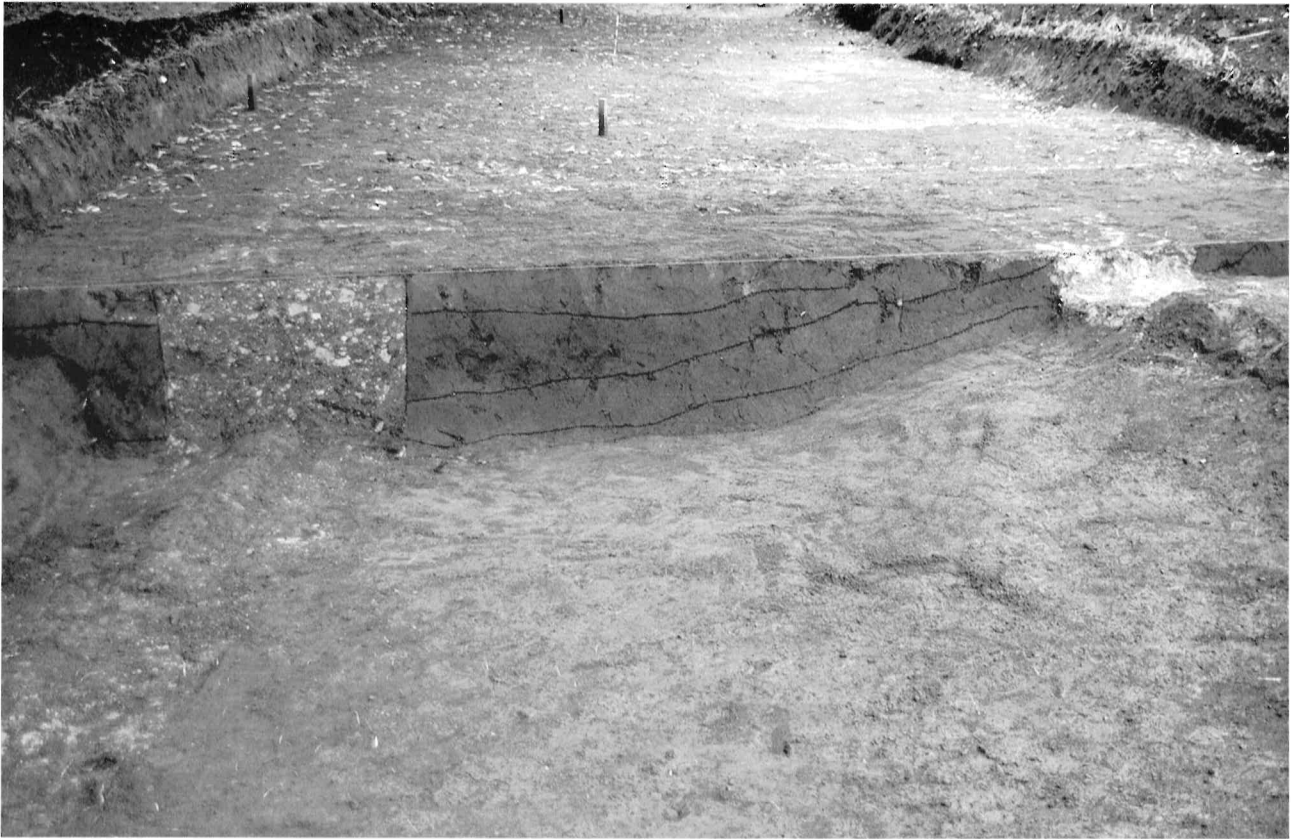


第 21 図 愛宕塚古墳

No	遺跡名	所在地	遺構	主体部	時期	面径 (cm)	文献	備考
1	辺田1号墳	千葉県市原市惣社町	円墳 (31 m)	木棺直葬 (組合式木棺)	古墳前期	2.85	財団法人市原市文化財センター 1985『市原市文化財センター年報昭和60年度』	
2	伊興遺跡	足立区伊興町	SK072		古墳前期	0.5	足立区教育委員会他 1990『伊興遺跡平成元年度』	
3	宇津木向原遺跡	八王子市宇津木町	4区5号住		庄内式併行	7.9	考古学資料刊行会 1973『宇津木遺跡とその周辺』	
4	万田熊ノ台遺跡	平塚町万田	方形周溝墓		古墳前期	3.3	平塚市博物館 1982『夏季特別展掘り起こされた平塚 (図録)』	
5	立洞2号墳	敦賀市大字井川	帆立貝式古墳 (25 m)	木棺直葬 (割竹形木棺)	古墳前期	4.2	福井県教育委員会 1978『北陸自動車道関係遺跡調査報告No.13』	報告書では4世紀末～5世紀初頭
6	上ノ山遺跡	静岡市大谷	円墳 (17 m)	木棺直葬	古墳前期	破片	静岡県教育委員会 1984『上ノ山遺跡発掘調査概報 I』	
7	高溝遺跡	坂田郡近江町	大溝		古墳前期	3.3	近江町教育委員会 1990『高溝遺跡』	
8	久宝寺遺跡	大阪府八尾市	住居跡 4		古墳前期	2.4 ~ 2.5	八尾市立歴史民俗資料館 1992『特別記念展 八尾を掘る - 10年の歩み -』	
9	吉田南遺跡	兵庫県神戸市西区	溝			2.85		庄内期の溝で、布留埋没の溝下層出土
10	別所遺跡	兵庫県				2.6		
11						3		
12			祭祀遺構		古墳前期	2.7		
13	長瀬高浜遺跡	鳥取県羽合町	祭祀遺構		古墳前期	2.6	財団法人鳥取県教育財団 1981『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅲ』	
14			祭祀遺構		古墳前期	2.4		
15	谷尻遺跡	岡山県上房郡北房町	17号住居跡		古墳前期	3	北房町教育委員会 1986『谷尻遺跡 赤茂地区』	報告書では百間川沢田遺跡とはほぼ同時期と推定
16	百間川沢田遺跡	岡山県岡山市沢田	遺物包含層		古墳前期	破片	岡山県教育委員会 1993『百間川沢田遺跡 3』	百間川古墳時代Ⅱ (亀川上層 = 纏向Ⅳ)
17	石鎚権現第7号墳	広島県福山市駅家町	方墳 (7.0 m)	木棺直葬 (組合式木棺)	古墳前～ 中期	2.6	広島県教育委員会 1981『石鎚権現古墳群発掘調査報告』	報告書では4世紀末～5世紀初頭?
18	若草遺跡	愛媛県松山市	遺物包含層		弥生Ⅴ期	3.9	松山市教育委員会 1991『若草遺跡』	
19	居石遺跡	香川県高松市	河川跡		古墳前期	2.8	高松市教育委員会 1995『居石遺跡』	報告書では布留古段階
20	沖ノ島18号遺跡	福岡県宗像郡大島村	祭祀遺構		古墳前期	3.5 ~ 3.9	宗像神社復興期成会 1979『宗像沖ノ島Ⅰ・Ⅱ』	

第3表 古墳時代前期遺跡出土素文鏡一覧

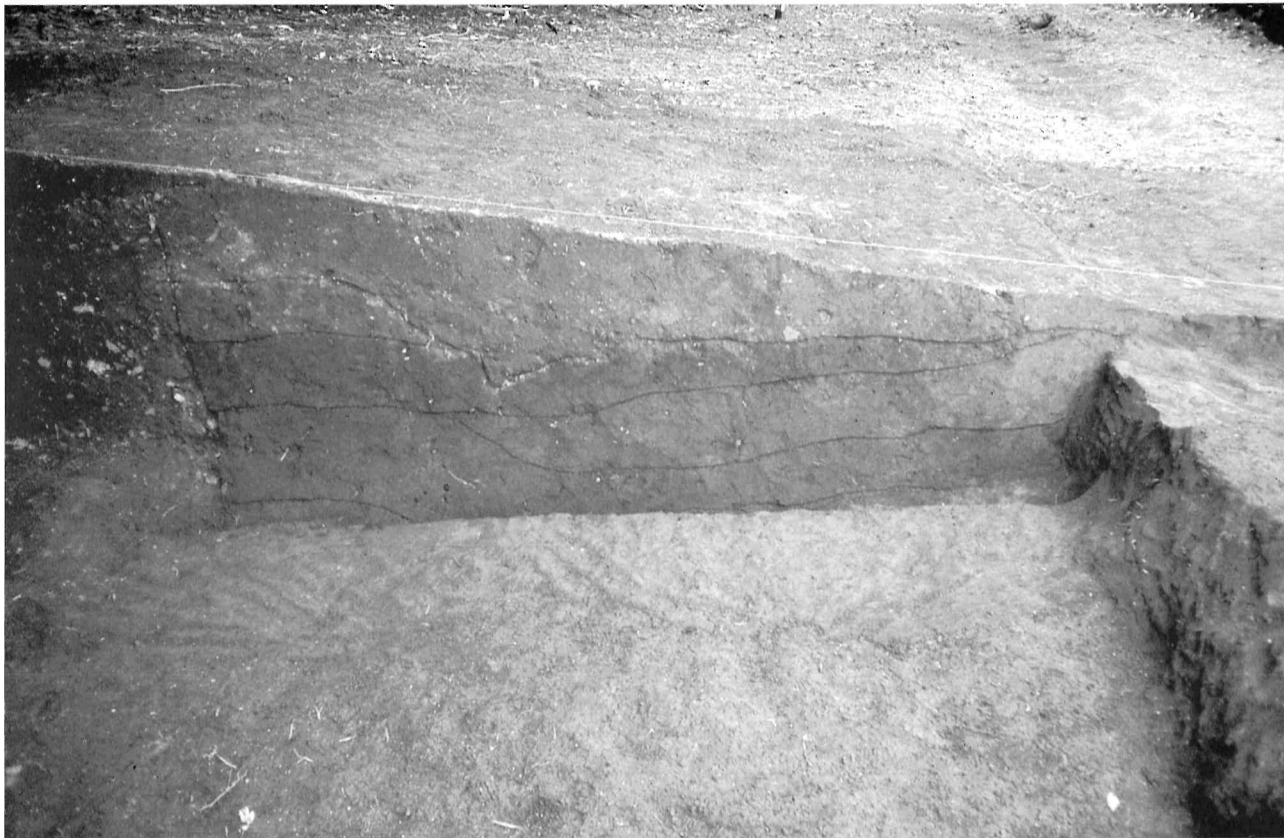
写真図版



①前方部セクション



②括れ部セクション



①後方部セクション



②前方部調査風景



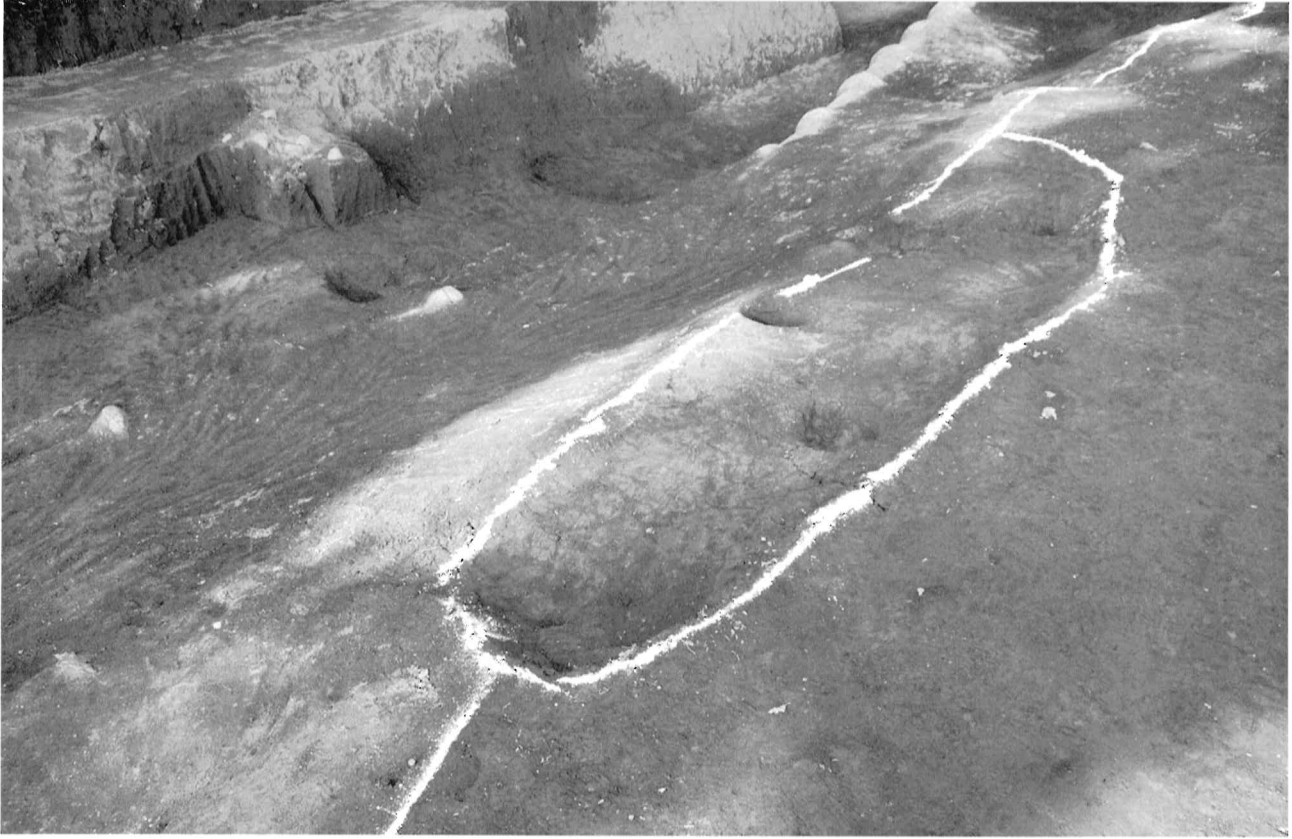
① SX01



① SIO1 完掘状況



② SIO2 完掘状況



① SIO3 と前方部周溝完掘状況



② SIO3 セクション



① S104 確認状況



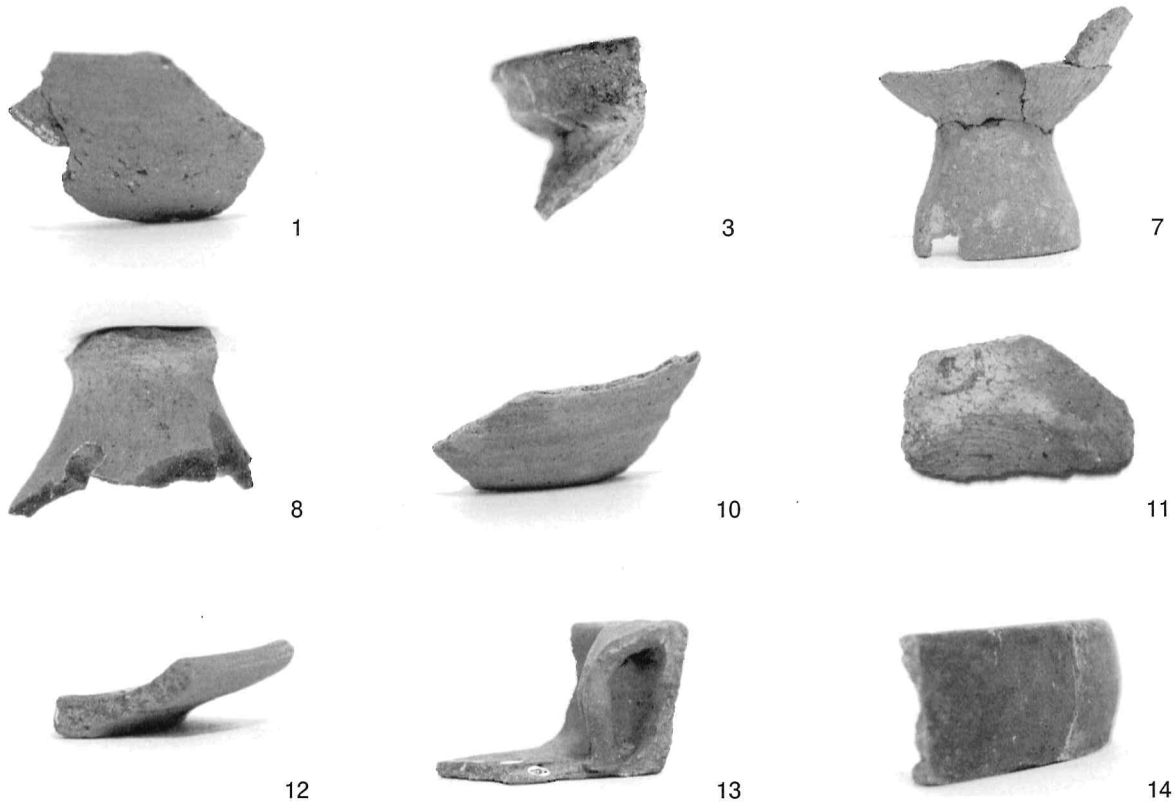
② S104 遺物出土状況



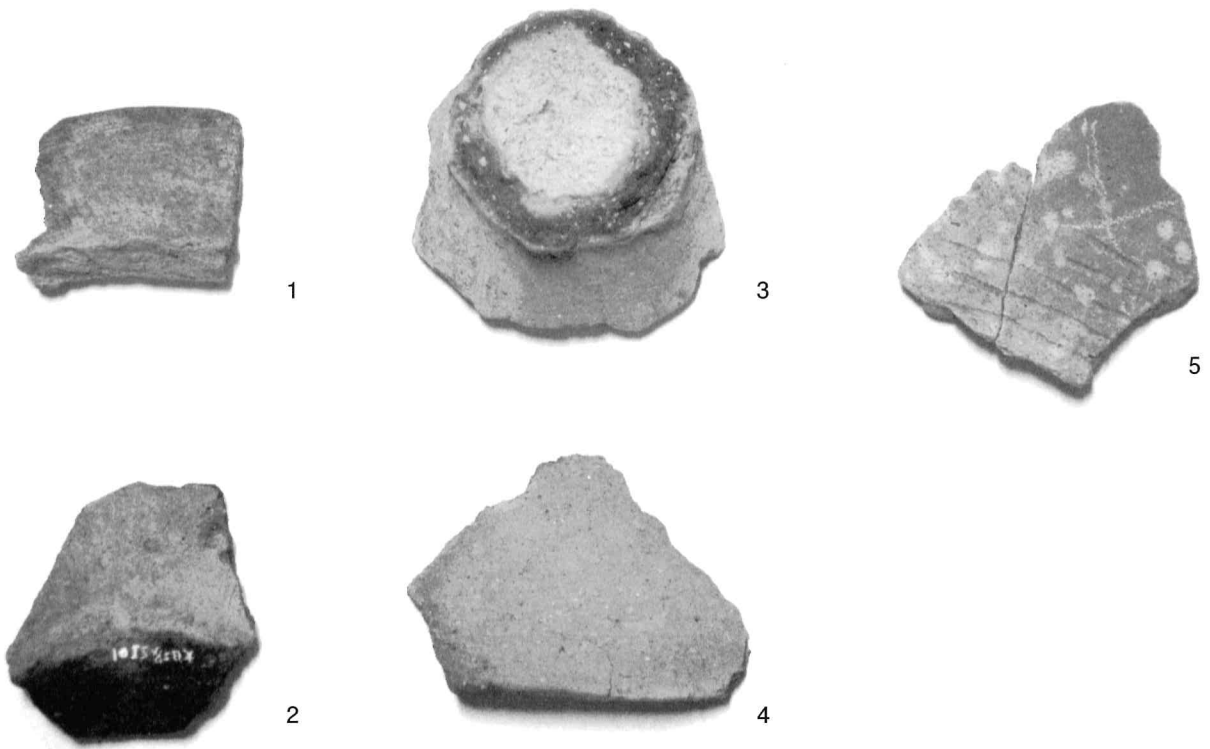
① SK01 古銭出土状況



② 後方部周溝外焙烙出土状況



①周溝及び周辺出土遺物



② SIO1 出土遺物



① S102 出土遺物



② S104 出土遺物



③ SX01 出土遺物



1



2



3



4



5

①古銭



1

②遺構外出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	だいにちづかこふん
書名	大日塚古墳
副書名	
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第72集
編著者名	今平利幸
編集機関	宇都宮市教育委員会
所在地	宇都宮市旭1丁目1番5号 TEL 028-632-2764
発行年月日	西暦2009年(平成21年)3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
だいにちづかこふん 大日塚古墳	うつのみやし 宇都宮市 もぼらまち 茂原町	09201		36度 分 秒	139度 分 秒	20070701 ～ 20070831	1,020	旧配水塔撤去に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大日塚古墳	古墳	古墳時代	古墳 1基 竪穴住居跡 4軒 土坑 3基	土師器 古銭	

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第 72 集

大 日 塚 古 墳

— 旧配水塔撤去に伴う発掘調査 —

平成 21 年 3 月発行

発 行 宇都宮市教育委員会文化課
(宇都宮市旭 1 - 1 - 5)
TEL (028) 632 - 2764

印 刷 (株)アートプレス
(宇都宮市平出町 3600)
TEL (028) 663 - 5085
